

カルメル 霊性センターニュース



宇治カルメル修道院

2018年11月

347号

目次

目次	1
心の泉	3
カルメル会の企画案内	27
東京	28
名古屋	33
京都	34
北陸	37
諸所の企画案内	39
郵送お申込みのご案内	52
編集後記	53



あなぐま(ムジナ)

宇治カルメル修道院近辺にて(10月撮影)

動画 <https://www.youtube.com/>「アナグマ 宇治木幡」で検索



心の泉



宇治修道院 信徒会館



第三卷

第十四章 善行におごらないために、隠れた神の裁きを考える

4 傲慢につける薬

主よ、あなたにとって人間が何でしょう？粘土が陶工師に対して何を誇れましょう(イザヤ45・9参照)。真に神に服従する心の人々が、どうして人々の空しい称賛に高ぶるのでしょうか？全世界さえ、真理の神に服従した人を、高ぶらせることはできません。また、神により頼んだ人は、人間のどんな称賛にも動かされません。その称賛を与える人は、いずれも無であり、その声と共に消えていきますが、「神の真理は永遠に朽ち果てることのないのです。」(詩篇116・2。)

第十五章 望むことについて、どうおこない、どう語るか

1 主

《子よ、あなたはいかなる場合にも、こう言わなければいけない。「主よ、あなたのみ旨ならそうしてください。主よ、このことがあなたの光栄となるなら、み名においてそうしてください。主よ、もし私に適当であり、利益があると思われるなら、あなたの栄光のために、わたしにそれを用いさせてください。しかし、それが私の害となり、靈魂の救いのために役立つことをご存じなら、私からその望みさえも退けてください」と。人間の目でよいように見えても、すべての望みが聖霊から出ているとは言えないからです。あることを望むのが善意からか、悪意からか、それとも単に自愛心のためかを判断するのは困難です。多くの人は、はじめは善意に導かれると思っても、最後にはその誤りを悟った人がいるのです。》

2 謙遜と服従

従って、心に浮かぶことはすべて、神への畏敬と謙虚な心とをもって、望まなければならない。時にあきらめと信頼とをもって、すべてを私にゆだね、こう言いなさい。「主よ、あなたは、私にとって何がよりよいことかをご存じです。み旨のままにはからってください。あなたの望まれることを、望みのまま、望みの時に、私にお与えください。あなたの知恵に従って、み旨のとおり、あなたのより大きな光栄のために、私を扱ってください。私を、み旨の場所に置き、自由にあしらってください。私はあなたの手のなかにあります。み旨のとおり私を使ってください。「私はあなたのしもべ」(詩篇119・125)万事に備えています。私は自分のためではなく、あなたのために生きたいのです。なるべく完全に、またふさわしく生きたいのです」と。》

18—11月

三位一体の聖エリザベットのまなざし

イエス・キリストによって

もたらされた三位一体の生命を生きることは
なんとすばらしいことでしょう

主はご自分が《いのち》であり

わたしたちにそれをあふれるばかりに
与えるために来られたことを
繰り返し言われました

美しい秋といえる日も少なくなった近頃の四季の移り変わり・・・でも時は確実に11月の末に向かっていきます。王であるキリストの祝日で、教会歴はすでに年末となり、イエスの誕生を待つ待降節に入ります。

お告げからご降誕までの数か月聖マリアの態度のうちに、神が魂の底しれない深みにおいて内的生活をするよう選ばれた人々が生きるべき姿を見ます。どれほど深い平和と、深い潜心のうちにすべてのことをしておられたことでしょう。もっとも平凡な事柄も聖マリアにとって神とともにある神的なものでした。～三位一体のエリザベット～*

日々の生活の雑踏の中でも「真のいのちであるキリストの誕生」を聖マリアとともに心から待ち望みたいものです。希望にあふれた待降節を!



伊従 信子 (いより のぶこ)

ノートルダム・ド・ヴィ

* 『いのちの泉のほとりにて』 ドン・ボスコ新書

創造主への賛美 (14)

くのり
九里 彰

西欧の近代以降、自然科学技術が長足の進歩を遂げてきた。この発展を人類は止めるべきでもないし、止めることもできないだろう。人類の長い歴史はそのことを示しているし、この進歩を止めることは、人間が人間であることをやめることでしかないと思われる。

いずれにせよ、自然科学技術の発展によって人類の生活水準は飛躍的に向上し、医療、農漁業、交通や物資の流通、家庭生活など、あらゆる分野で恩恵をこうむっている。しかし、この飛躍的進歩は、現生人類（ホモ・サピエンス）の誕生を 20 万年前とすれば、四大文明が発生した直近の 4～5 千年、それもルネッサンス以降のこの数百年の間のことになる。20 万年を 1 メートルとすれば、数百年は 2.5 ミリ、1 センチにもならない。

19 世紀に発明された自動車や汽車や飛行機などの乗り物も、百年前の 20 世紀初頭には、一般庶民には手の届かないものであった。が、今や自転車（これも 19 世紀の西欧での発明）のように手軽に利用されるようになった。リニアモーターカーの線路網も、やがて日本中にはりめぐらされるのだろう。自動運転の自動車も実現するようである。建築土木技術の進歩もめざましい。海峡をまたぐ巨大な橋や海底トンネルの建設、高速道路網の整備、超高層ビルの建築などなど。

さらに通信機器の発達、インターネットの普及は、予想もしない勢いで世界中を巻き込んでいる。経済的に貧しい国々の人々でも、皆、スマホを持ち、世界中の人々と会話し、映像を送り合っている。AI の開発は、今や国策となり、すでにあらゆる分野で活用されつつある。

このような加速度的進歩は、どこへ人類を導くのであろうか。

ここで思い起こすのが、創世記 3 章にある原罪の物語である。「神の似姿」として造られた人間が、エデンの園の中央にあった、食べてはならないと命じられた「善悪の知識の木」の実を食べ、園から追放されるという物語である。これを食べると、「二人の目は開け、自分たちが裸であることを知り、二人はイチジクの葉をつづり合わせ、腰を覆うものとした」(7) ということである。

この事態は、二人に自己意識が発生し、自他を区別する分別心が生じたということであろう。自分が裸であり、相手が裸であることを知り、恥ずかしいという思いが生じ、イチジクの葉をつづり合わせ、腰を覆うものとする。イチジクの腰巻は、人類初の衣服であり、その製作は技術文明の誕生を意味している。

(続く)

十字架の聖ヨハネのこぼれ話 (129)

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

「十字架の聖ヨハネの本質的で深遠な解説」(6)

存在の鍵、善意の鍵、完璧になされた創造の鍵を、聖書の三つの箇所から、彼は読解しています。それは、次の歌の中に鳴り響いています。

そして 歩きながら それらに目を向け
そのみ顔を向ける (その姿を見せる) だけで
それらに 美をまとわせて 行かれました

こうして、十字架のヨハネの歩みを十全に読み解くことは、かけがえのないものとなってきます。

「聖パウロの言葉によれば、『御子は神の栄光の反映、神の本質の姿・顔(figura)』(ヘブ 1・3) である。ところで、神は、ただ、その御子の姿・顔(figura)をもつてのみ、すべての被造物をお眺めになった、すなわち神は、これによって、彼らに自然的存在と多くの自然的美と賜物を与えられ、彼らを仕上げ、完全なものになったのである。創世記に、『神はお造りになったすべてのものをご覧になった。それははなはだ良かった』(創 1・31) と言われているとおりである。

これらを、はなはだ良かったと見るとは、これらを見言葉である御子によってはなはだ良いものとしてお造りになることである。そして前述のように、彼らをご覧になることによって、彼らに自然的存在と美とをお与えになったばかりでなく、さらに、ただ御子のみ顔・姿だけで、彼らに美をまとませ、超自然的存在を与えながら、後に残して行かれたのである。それは、み言葉が人となった時、人間を神の美まで高められ、それによって、人間の内にすべての被造物を高められたのである。なぜなら神は人間の内に、すべての被造物の自然性に一致なさったからである。したがって、神の御子はみずから”si ego exaltatus a terra fuero, omnia traham ad me ipsum” (ヨハ 12・32) とおおせられたのである。これは、「私が地上から上げられる (高められる) とき、すべてを私に引き寄せるであろう」との意である。こうして御子のご託身と、その身体の復活の栄光によって、御父は、被造物に部分的な美をお与えになったばかりでなく、さらに余すところなく完全に、美と尊厳とを彼らにまとわされた、と言うことができるであろう」(CB5,4)。

エディット・シュタインにおける女性の霊性(3)

ハビエル・サンチョ神父 (OCD)

エディット・シュタインが私たちに提供するこのような解釈は、時代遅れである上に、「男尊女卑主義者」の単純な見方のように思われるかもしれません。しかしながら、私たちは、言うなれば、神学的視点から彼女の結論を解釈しなければなりません。彼女は、女性における「従順」や「服従」について語る場合、それを根本的に神の救いの意志への適応として理解しています。すなわち、「隷属」としてではなく、自分の意志を形づくることとして、また人間の、あるいは彼女にゆだねられた人々の救いのための自分の働きを形づくることとして理解しています。それは、一致への芽生えである愛という最高の価値への従順なのです。それは、彼女が、キリストとの関係において教会の象徴として女性について語る時、またおとめマリアを私たちが神への従順の模範として見なす時、よりよく理解されることでしょう。

女性本来の特徴的な他の要素は、「母性」(創1:28)です。この側面は、女性性のとても特有なくつかの性質をその内に含んでいます。エディット・シュタインは、それを、「生まれる子供との非常に緊密な絆」と同時に「新しい人間の生命への配慮と世話」(作品92)と表現しています。他方、「女性の体は、他者と」一つの体“となり、新しい人間の生命を自らの内に成長させ得るように構造的に造られている”(ESW V, 77)と。

女性のこのような本来的な召命に、原罪に由来する特別な意味をもった他の召命が結びついています。

蛇への断罪において、(神は)こう言われる。「私はお前と女の間に、またお前の子孫と女の子孫の間に、永遠の敵意を置く。彼はお前の頭を砕き、お前は彼のかかとを砕く」(創3:15)。この箇所は、普通、神の母と贖い主のことと見なされている。しかし、それは、次のことを除外しない。すなわち、その意味は、アダムが「すべての生ける者の母」という名を与えた最初の女性に適用される共に、彼女に続くすべての女性にも適用され、それによって、彼女たちにも悪と戦い、新しい命を準備することが、特殊な使命として与えられているということである。「神は私に息子をお与えくださった」と、最初の息子を産んだ時、エバは言った。それは、息子の内に祝福を受け取ったという予感のようなものである。それゆえ、イスラエルの女たちは、その中に、救いの日を見る世代を産むという自分の召命を見出したのである。このようにして、罪と贖い間の非常に特有一致が設けられ、これら二つの出来事の問題は、驚くべき仕方に対応しているのである」(作品126-127)。

この解釈は、女性を区別する特徴としての母性の概念の広さを理解する助けとなります。その側面は、女性を単に身体的領域において「母」とするだけでなく、特に霊的領域において、「神のために子をもうける」という重要な使命を持つ母とするものです。それは、精神的存在と身体的存在を親密に一致させる側面です。女性性を構成するこの決定的な特徴は、女

性が特に宗教の諸価値に対し、また人として直接的な関係を持つすべての人々に対し、受容性（感受性）が高い理由を説明します。母であり伴侶であるというその存在が人へと方向づけられているからです（ESW V, 208-209）。

人を丸ごと（全体的に）受けとめるという女性の生得的な傾向は、その存在をより特徴づける要素、すなわち、「愛を与え、愛を受け取る」という要素を、私たちに見出させます。

可能な限りより良い方法で、固有の人間性を特徴づける個人的な方法で、その人間性を発展させ、成熟させ、あるべき存在に到達すること。この実りある過程でのみ獲得できる愛の一致の内にその人間性を成熟させること、また同時に、他者を完徳（完全さ）へと促し、駆り立てることが、多くの側面で明らかにされる、女性の最も深い必要性（必然性）である。それは、特別に女性的な必要性である。（同 52）

かなりの程度で、女性のこの特徴的な存在様式が、思考様式を限定することになり、それは、生命あるものへとより方向づけられていることによって、男性のそれとは区別されます。同様に、その認識様式は、概念的というよりはむしろ観想的であることによって特徴づけられます（同 3 参照）。

私たちは、新約聖書の分野で女性が受け取っている他の使命・召命、すなわち聖別・奉獻された処女性（独身性）を忘れることはできません。それは、女性性の本来的な諸特徴の内に完全に刻印されている超自然的な召命です。神学的に言えば、むしろ、女性の全体的な切望を表現し、補完する召命です。

さて修道生活のこの形式的要素が、女性性の諸特徴とどのように関係しているかを明らかにしましょう。自分を忘れていく愛の内に神に自分を与えていくこと、また神のための空間を造り出すために自分の命を考慮に入れないことは、修道生活の動機であり、原理であり、目的です。これをより完全に実現すればするほど、靈魂を満たす神の命は、ますます豊かになります。神の命は愛です。あふれんばかりの、限りのない、自由に自らを与える愛です。あらゆる必要性に向かって憐れみ深く心を動かす愛であり、病人をいやし、死んでいた者を生き返らせ、人を保護し、守り、養い、教え、養成する愛です。また泣く者と共に泣き、喜ぶ者と共に喜ぶ愛です。御父が望まれる者となるために、すべての人に仕える覚悟ができていく愛です。一言で言えば、それは神の心にある愛です。この愛をもって自分自身を与え、丸ごと他者を所有するために、他者の「所有物」となること、これが、女性の心のもっとも深い望みなのです。（ESW V, 11）

それは、本物となるために、神の恵みによる呼びかけの中で築かれねばならない至高の召命なのです。「神の国のための処女性は、尋常でない呼びかけであり、それが実現されるには、特別な恵みを必要としているのです」（作品 93）。

（続く）

1 Cfr. ESW V, 101.

年間第31 主日 (マルコ12:28-34)

「心を尽くし、知恵を尽くし、力を尽くして神を愛し、また隣人を自分のように愛するということは、どんな焼き尽くす献げ物やいけにえよりも優れています。」イエスは律法学者が適切な答えをしたのを見て、「あなたは、神の国から遠くない」と言われました。「遠くない」、けれども「神の国に入っている」のでもない、ということではないでしょうか？適切に答えられるというだけでは十分ではないのです。

あらゆる掟のうちで何が第一の掟か？全霊全力での神への愛と隣人への愛、それが結論でした。掟は何か、それは愛することだということです。掟と言うと、「～を守る」とか「～をしない」というイメージでとらえる人が多いと思います。しかし、愛することは、「～をするとかしない」という単純なものではありません。愛の実践が問われます。そして、愛には際限がありません。神は無限の方ですし、隣人もイエスにとっては自分の家族や兄弟、友人にとどまらず、敵も含まれます。すべての人を兄弟として愛し、神を愛することができたとき、初めて、私たちは父の子と呼ばれるに足る者となれるのだと思います。

愛は、私たちの生涯のテーマであって、決してこれで十分といえることはいないでしょう。でも、今すでに神様を愛し、隣人への小さな愛を積み重ねて生きているならば、もうその道を歩み出しているのは確かなはずです。神の国に入っていると思います。「神の国はあなたがたの間にある」からです(ルカ17・21)。

いけないのは、適切に答えられ、頭で分かっているというだけで、愛の喜びを生きないことだと思います。最近出た『喜びに喜べ』という使徒的書簡の中で、教皇様は現代のグノーシス主義というものを批判しています。聖書や教理などをなんでもかんでも知っているけれども、それだけで自分は宗教的なエリートだと思い込んでいる人たちです。愛や謙虚さに欠け、無知な人たちを見下したりします。また、現代のペラギウス主義というのも批判しています。完璧に掟を守り、宗教的实践に事欠かない人たちですが、弱さや不完全さの中に働く神の恵みを理解せず、行いに不十分な人たちを見下します。どちらも、スゴイ人たちではありますが愛が欠けています。また、謙虚さが欠けています。神への愛と隣人への愛に真に関心をもっていません。ただのうぬぼれなのです。

聖書が教える掟は、神のいつくしみの愛を賛美し、信仰によってその恵みの中を生き、愛され赦された罪人として謙虚に、すべての人、とくに助けを必要としている小さな兄弟を愛するという、愛のダイナミズムの中を毎日生き続けるということだと思います。掟ではありますが、非常に大きな掟です。愛と恵みの中を生きる、ということが何よりも重要であると思います。(今泉健神父)

年間第32主日 (B) (マルコ12:38-44)

本日の福音では、律法学者のしている全てのことが人間の目には正しいのだと言っています。イエスにはそれがすべて見せかけのものであることが分かりました。彼らの衣は目立つためのものでした。人々は名譽を得るために貢ぎを支払いました。今日同じような虚栄心はよくあります。着るものや、乗る車、自分の名前につくタイトルや肩書きが自分に価値を与えているようにみえます。しかし、この人たちには非難以外の何ももたらしませんでした。リーダーシップや学歴の立場は大きな責任を負わせました。しかし、彼らは他者に対してできるはずの大きな善ではなく、他者を利用することに用いました。私を持っている地位や学識にたいして、どのような行いを示さなければならぬのでしょうか？

私は誰のために生きているのでしょうか？ 律法学者たちは自分自身のために生きていました。彼らは他者に印象づけるために教えました。与えるならば名声のためでした。祈るならば貧しい人たちから奪った全てのものを正当化するためでした。彼らは悪い人ではありませんでした；彼らは「いい人」でした。しかし、彼らは自己愛に駆り立てられていました。彼らがたまたま何か正当なことをしたとしても、その価値は空いものでした、彼らは自分自身を求めていたからです。

たくさんのお見せかけや空しいお見せびらかしではなく、イエスは徳の明るい行為をご覧になります。他の人が誰も見なかったことをご覧になります。全ての人に殆ど無視されるような人、「貧しいやもめ」をご覧になりました。彼女の贈り物は二重の意味で本ものでして。彼女は賞賛を得ようとは考えないでそっと与えました。彼女の贈り物は神様のためだけのものでした。彼女が与えたものは見たところ小さなものでしたが、実際には彼女の全て、持っているもの全部でした。純粋な寄付は神のために行われ、わたしたちの自己全体が贈り物です。わたしが求められたとき、求められた場で、求められたから、無条件で奉仕すること、いつでも愛し、奉仕できるように準備していること、これらはどれほど素晴らしいことでしょうか！私の寄付はいつでも隠されているのでしょうか？ どのような方法で私は自分の全自己を神に差し出しているのでしょうか？

私たちは祈りの中で主に、与える美德を奪ってしまう自己愛から開放してくださるよう、徳を形づくるための努力を奪ってしまう自己愛から開放してくださるようお願いしなければなりません。私たちは、もっと自由に他者を愛することができるように自分自身から引き離そうとしなければなりません。助けを必要としている人を決して無視してはなりません。自分への唯一のご褒美が永遠にキリストのうちに見出されますように、自分の寄付や贈り物をそっと静かに差し出すことをいつでも忘れないでいてください。

(Sr. Paulina)

年間第33主日

(マルコ13:24-32)

今年の典礼の暦もあと1週間となりました。来週は、王であるキリストの祭日です。1年の終わりをまもなく迎えるにあたり、今日のみことばの福音は、終末のありさま、世の終わりのありさまが展開されてゆきます。

このような苦難の後…とイエスは語られますが、それは今日の聖書箇所の前で語られていた、終末の徴、国と国との敵対、方々の地震また飢饉が起こり、天地創造の初めから今まで起きたことのない様な苦難です。そして、今後も決してない様な大きな苦難が訪れた後、天変地異が起こることを具体的に告げます。

太陽は暗くなり、月は輝きを失い、星が空から落ちる…、この世が終わると誰しもがイメージできるでしょうね。そして人の子が雲に乗って来られるありさまを人々が見るとイエスは言われます。そして選ばれた人たちが呼び集められるとも。

このみことばを聞き、そして色々と思いを巡らすと、何となく全てが終わってしまう、破滅が訪れる…そんな暗い、ネガティブなイメージを浮かべてしまうかも知れません。しかし選ばれた人々が呼び集められることを想う時、救いが完成する時が訪れるという希望の時、喜びの時の到来と捉えることができるのではないのでしょうか。

その時がいつなのか、いつ来るのかは誰も知らないと言われます。父だけがご存知であると。このことを聞いて、不安に思われる方もおられるかも知れませんね。しかしその時の訪れについて思い悩む必要はありません。

私たちが神を愛し、人を愛し、人を大切に、物事や出来事を大切に、毎日を誠実に歩んでゆくなら、恐れることはありません。むしろその時の訪れを心待ちにしながら、一日一日を歩んでゆくことができるでしょう。

イエスは私たちの救いのためこの世に来られ人となり、十字架での死と復活の後、天に昇られました。そして今もなお、私たちにご自分の生命をお与えになり、私たちとともに歩んで下さいます。私たちがともに歩まれるイエスに心を開き、イエスとともに救いの完成の日に向かって、歩んでゆくことができます様に。

(Fr. 古川利雅)

王であるキリスト (ヨハネ18:33b-37)

今日は王であるキリストの祭日、典礼歴最後の週の第一日目です。今日の典礼で、イエスが王であると宣言します。イエスはどのような王なのでしょう。素朴な大工の家に生まれ30年間普通の生活をしておられたイエスは、公生活を始められても謙虚に慎ましく、漁師や徴税人、罪びとに仕える者として日々過ごしておられたのです。御父から与えられている特別の力をもって貧しい人を立ち上がらせ、病人を癒し、自分を失っていた人が正しく生活できるようにしてくださいました。イエスが行われたこれらの奇跡を誰にも言わないようにと、人々を穏やかに諭されていました。イエスは人々に褒めはやされることを望まれず、地上の王が求める権力や名声を無効のものとなさいました。

イエスが行使された権力と権限は地上の王たちのそれとは全く異なったものでした。イエスにとって、権力は人々を守り保護するための力でした；カナの婚宴の席で葡萄酒の必要を満たし、病人を癒し、わたしたち人類を救うために十字架の刑を自ら受け、命を捧げてくださいました。ご自分の権限をご自分に従う人々の益のために使われました。イエスにとって、権限は人々に奉仕のためのものでした；嵐を静め、悪魔を追い出しました。イエスは誰もが近づける方で、わたしたちの仲間の一人でした。イエスは仕えられるためではなく人に仕えるために来られた方、心から従っていきたい真の王です。王に対する忠誠を強要されません。自ら進んでイエスの思い望みを受け入れ従うのを待っておられます。イエスのように、神を愛し、人々を愛し、互いの愛の交わりに生きるためにイエスが始めてくださった布教の仕事に招かれています。どのようにして？ 飢えている人に食べ物を差し出し、旅人を心から迎え、裸の人には衣服を、病の人を訪ね慰め、牢にいる人を慰問するなど、神の思いの中で出会う友の必要を愛の心で満たして行くことです。

今日の福音は、ポンショピラトがイエスに向かって「あなたはユダヤ人の王か」と尋ねたとき直接的にはお応えにならなかったと記しています。それは応えを回避されたのではなく、ピラトがイエスの王職を理解することの難しさを思われたからです。イエスはシーザーのような脅威の王でもなければ、異教徒が期待していたようなローマ帝国を打ち倒そうとするユダヤ人の王でもありませんでした。イエスの王職はこのような単純な意味の王職を超越しているものです。イエスがピラトの思いを正そうとなさったのはこのためです。イエスの国、神の国はこの世のものとは異なっています。イエスは仰いました。「神の国は見える形では来ない。“ここにある”” あそこにある“と言えるものではない。実に神の国はあなたがたの間にあるのだ。」(ルカ17:21)

王であるキリストの祭日に、わたしたちの愛する王でいらっしゃるイエスを一番大切な方として敬い愛し、日々イエスと共にそのいつくしみの愛の業を行う決意をしましょう。

(Sr. Paulina)

いのちの言葉 11月

見よ、わたしは戸口に立って、たたいている。
だれかわたしの声聞いて戸を開ける者があれば、
わたしは中に入ってその者と共に食事をし、
彼もまた、わたしと共に食事をするであろう。

(ヨハネの黙示録 3・20)

今月のみ言葉は、「予期せぬ客」を歓迎するよう、私たちを招いています。

キリスト教徒の育成に優れたこの書の著者は、全人類への愛ゆえに死んで復活された主イエスの名によって、ここでは特にラオディキアの教会（今日のトルコに存在した共同体）に向けて、この言葉を語っています。

著者は、時には褒め、時には厳しく叱りながらも、信徒たちの心がいつも、主の力強い助けに向かって開かれているよう導きます。それは何よりも、彼らが神の声をはっきり判別できるようになるためでした。

見よ、わたしは戸口に立って、たたいている。だれかわたしの声聞いて戸を開ける者があれば、わたしは中に入ってその者と共に食事をし、彼もまた、わたしと共に食事をするであろう。

現代に生きる私たちも、不安や恐れ、分裂、この世的な安穩の生活への誘惑など、さまざまなことを体験しながら生きています。

こうしたすべてを乗り越え、到来されるイエスを心からお迎えするよう、ふさわしい心の準備が私たちにも求められています。

イエスは毎日ちがった「服装」で、私たちにその姿を現されます。時には、福音を忠実に生きようとするとき、あるいは、人生の中で重要な選択をしなければならない時に会う苦しみ、困難、挑戦という「服」を着て現れるかもしれません。そして何よりも、私たちが日々出会う人々のうちに、その姿を現されるでしょう。

今月のみ言葉はまた、ちょうど親しい友と食卓で語りながら時を過ごすように、イエスと 2 人だけで、心を開いて過ごす「ひと時を持ちなさい」と私たちに勧めています。

私たちの心の扉を開く手助けをしてくれるのは、神の壺である聖霊です。その声を聴くにはどうすれば良いでしょう。

キアラ・ルービックは記しています。

「聖霊の声を聴くには、すべての雑音を心から締め出す必要があります。ちょうど、泥土からダイヤモンドを取り出すように。泥を落とし、きれいに磨いて飾り、時宜にかなったときに贈り物にできます。このダイヤにあたるのが『聖霊』です。聖霊は、神の愛であり、他の人に与えるためのものです。

『火』が藁や薪に炎が移れば燃え上がり、さもなければ消えてしまうように、愛も私たちの中で豊かになって、外に溢れ出るほどになるべきです」(*1)と。

教皇フランシスコも言っています。

「聖霊は賜物です。(中略)

この聖霊という賜物は、私たちの中に入り、私たちを実り豊かな者にしますが、それは他者に与えられるようにするためです。受けるのは、常に与えるための

です。(中略)

自己中心的な『私』を、『私たち』へと広げるのは聖霊に他なりません。与えるために受けるのです。私たちが中心にいるのではありません。私たちは、他者に賜物を届ける道具なのです」(*2)と。

見よ、わたしは戸口に立って、たたいている。だれかわたしの声を聞いて戸を開ける者があれば、わたしは中に入ってその者と共に食事をし、彼もまた、わたしと共に食事をするであろう。

大勢の移民の人々が通る、とある国境に近い町でのこと。「心の戸」をたたき音を聞いた人がいます。デリアの経験です。

「暑い日の午後、私の店の前の路上に、たくさんの母親と子供たちが座っていて、子供たちはお腹をすかせて泣いていました。見るに見かねて『子供たちの食事は無料にしますから、お店にどうぞ!』と私が招くと、お母さんたちはお金がないので、はじめ恥ずかしそうでしたが、そのうちみんな店に来てくれました。ここからすべてが始まりました。

今や、私の店は『移民レストラン』となり、私は『アフリカのお母さん』と呼ばれるようになりました。彼らの多くはイスラム教徒です。

常連の足は遠のきましたが、以前のお年寄り用娯楽室は子供部屋になり、子供たちがお絵かきしたり、遊んだりしています。お母さんがホッとできておむつ交換や授乳もできるような空間もつくり、ときにはイタリア語のレッスンもしています。

『移民レストラン』は私が選んだことではありません。彼らを見捨てることができなかつただけのことです。おかげで、支援して下さるたくさんの善意の人々に出会うことができました。また同じことが起きたら、私はためらわずに同じことをするでしょう。私にとって一番大切なのは『与えること』だからです」(*3)

「戸をたたきイエス」を迎え、彼と外に出て、周りの人に向かうよう私たちも呼ばれています。

そうすればイエスご自身が私たちの生活に入ってこられ、イエスと共に働いていかれるでしょう。

レディツィア・マグリ

*1 キアラ・ルービック「聖書は愛」1949年9月12日、2006年6月のコレガメントより

*2 教皇フランシスコ、一般謁見、ローマ2018年6月6日より

*3 チッタノーバ誌(オンライン版)2018年3月7日、2018年6月16日のコレガメントより

いのちの言葉は聖書の言葉を熟読し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

●お知らせ—み言葉を生き、笑いを分かち合うために

◎いのちの言葉の集い

関東 11月 8日(木) 調布 10:00~お昼ごろまで カトリック調布教会

11月 29日(木) 厚木 10:00~ 昼食持寄り 個人宅(046-247-8854 成田)

九州・沖縄 11月 11日(日) 長崎 11:00~ カトリック浦上教会 要理教室

11月 21日(水) 長崎 14:00~ カトリック長与教会

11月 11日(日) 鹿児島 14:00~16:00 カトリック谷山教会

11月 16日(金) 奄美 14:00~ 個人宅(0997-53-7641 松下)

11月 19日(月) 奄美 14:30~ 個人宅(0997-57-1871)

11月 18日(日) 沖縄 14:00~16:00 カトリック開南教会 要理教室

連絡先: フォコラーレ東京 03-3330-5619/03-5370-6424 長崎 095-849-3812

E-mail: tokyofocfem@gmail.com ホームページ: conil157ch1.wix.com/focolare-jp

偶然ながら興味深いというのでしょうか、面白おかしいというのでしょうか、それとも大変に貴重であるというのでしょうか、Aさんと私はそのどれもが当てはまるかのような、味わい深いと言うべき関係なのです。

同じ団地に居住し互いの子どもが同じ幼稚園に入園して、幼稚園の父兄として知り合いとなりました。毎朝園の送迎バスに子どもを乗せて、行ってらっしゃいと手を振って見送り、帰りの時刻にはバス停まで迎えに出て、数人の父兄同志で軽い言葉を交わしながらバスを待ちました。

風邪がなかなか治らないでしばらくお休みするとか、キャッチボールの球が顔に当たっちゃったとか、アトピーが大変とか、虫歯で歯医者さん通いが長くなってとか、兄弟喧嘩が激しいとか、おじいちゃんの具合が悪く田舎へ帰ってくるとか、何のかのと日常の苦労話をこぼし合い聴き合ったものです。

もうずいぶんと大昔のことなので、幼稚園のその子どもたちは今では立派な大人、それも壮年というべき年齢であり、たとえ今道で行き合ったとしても、顔を見とめることは難しいでしょう。親同士のAさんと私は、ほんのたまには往来で顔を合わせ微笑み合い、或る時はひと言ふた言お天気の挨拶をしたり、ちょっとした情報の交換をしたりしていて、これまたいつか互いに老齢となりました。

寄る年波には勝てず、私の夫はこの数年来介護保険のお世話になることとなり、ケアマネージャーさんの話を聞いたり、あちらこちらと見学したりして支援事業所を決め、デイサービスに通うようになりました。

その昔、子どもを幼稚園バスに送り迎えしたように、現在は夫をデイサービスの送迎車に送り迎えをする日々となったのです。まさしく長い長い時が流れました。

或る日のことです。いつものように夫をデイサービスの送迎車に乗せ、行ってらっしゃいと同乗の皆さんにも手を振って送っていたのですが、ふと気が付くと何ということでしょう、そこにAさんの夫君もおられ、こちらに手を振っていたのです。あまりの思いがけなさに驚き息がとまるほどでした。

そしてその後、更にはそれだけではありませんでした。

夫の歯医者さん通いに付き添っていた時に、Aさんもまた夫君の歯医者さん通いをしていて、同じ歯医者さんでばったり出会いました。私たちはもうただただ笑い合うしかなかったことでした。

私たちはたまに出合ったりすると道路の端に立ち止まり、もはや子どものこと、幼稚園の話ではなく、病を負った夫のこと、介護施設の話をするようになりました。

「頑張らないで頑張りましょう」と A さんはいつも言います。「いいじゃありませんか 人生こういうことになりました」「これはこれでとてもいいことです」「幸せだということにしましょうよ」「ほら、川の流れるようにいくつもの時代が過ぎて、季節は移りゆく・・そういう歌がありましたね」

時の流れ——、ふり返る時間はすべての出来事が一瞬のような気もするし、遠く遥かに辿るという思いもあるのですが、それはたとえば川の流れるように右から左へと横向きの連続線というだけではないようにも感じています。

確かに川の流れるようにいくつもの時代が過ぎてゆき、季節は移りゆくのですが、移ってゆくひとつひとつの瞬間は、たった一瞬は、それそのものが果てのない丸ごとという気がするのです。 全世界というのだと思います。

もっと言えばこの瞬間このひとつひとつが、神さまの絶えることのない働き、愛のただなかなのだと私の魂は知っているのです。

だからこそいつの時もどのような時も、私をひとつひとつの全世界に開放ってありますように、委ねきってありますようにと、願い続けるのです。

どの時か、A さんと互いに夫連れ散歩でも出会うことができました。

夕暮れ時にさしかかる空の雲が淡い色彩に包まれ、快い風が樹々を渡り、私たちの頬をも慰撫しつつ通り抜けていました。 この美しい快適なひとときに、私はとても寂しいような深い気持ち、無力感ともいうようなもの、それでも深く深く満ちているという感じを身に受けていました。 どういったらよいでしょうか、今のこの時、この世界はどこか向こうから現れてきているという気がしたのでした。 A さん夫婦は手を振って去ってゆき、私は夫に水筒の水を手渡し、空の雲を見上げました。

時とはいつも永遠の今なのでしょうか。

「きょうみ声を聞いたなら あなたがたの心をかたくなにはいけない」
雲の中から声がきこえたような気がしました。

(上野毛教会信徒)

跣足カルメル修道会HP (International)

跣足カルメル修道会ローマ本部のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com>
の記事を紹介します。

<< Communications (時事通信) >>

2018年10月1日

メキシコ的女子跣足カルメル修道会の 連合 (グアダルペの聖ヨセフ) 創設50周年記念祭



今年9月24日にメキシコ的女子跣足カルメル修道会の連合は、創設50周年記念行事をサヴェリオ・カニストラ総長の司式による荘厳ミサで開催しました。このミサには、女子跣足カルメル修道会担当の総秘書ラファエル・ウイルコフスキー神父、ラテンアメリカ総長顧問のハヴィエル・メナ神父、メキシコ管区長リカルド・ペレス神父、メキシコ女子跣足カルメル修道会の連合の付司祭兼管区長代理のホアン・パブロ・パティニョ神父、そして(聖アルベルトの)メキシコ管区の顧問会や他の会員たち、また他の管区の修道者達が参加しました。

サン・ホアン・デ・ロス・ラゴスの聖ヨハネ・パウロ二世司牧センターには、一週間、この50年間に対する感謝の心をもって、また兄弟姉妹的雰囲気の中で、女子カルメル会連合に属する37の修道院から修道女たちが集まりました。そのうちの幾日かは、今までの長い歩みの振り返りを行ない、また将来のための考察と課題を検討しました。このようにして、私たちの母聖テレジアが望まれたように、“良いから、さらに良くなるよう”絶えず歩き続けることが可能となるでしょう。

糸巻き棒からペンへ(36)

現代人のためのイエスの聖テレジアの教え

エドゥアルド・サンス OCD

神の愛の至高の体験を説明するためにテレジアが矢を持った天使のイメージを利用するのは、おそらく、その時代の恋愛詩の中で想像されていたように、愛が矢を射る小さな天使、キューピットとして表現されている絵をしばしば見ていたことが、聖女に影響したと思われます。それらの詩では、愛する者は狩人、愛される者は傷ついた鹿として表現され、愛される者は愛の矢で自分を傷つけた者の内にもみ安らぎを見出すことができるのでした。彼女自身、この文化的背景を、自分の体験を歌いあげるために利用したのです。

もう私はすべてをゆだね、与えつくしました
そこでこれほどの幸運が与えられたのです
愛する方は私のためにおられ
私は愛する方のためにおります

優しい狩人が
私に矢を放ち、私が傷ついた時
愛の両腕の中へ
私の靈魂は倒れ込みました
そして、新たな命を得ながら
このような幸運を与えられました
愛する方は私のためにおられ
私は愛する方のためにおります

愛の毒が塗られた矢で
彼は私を傷つけました
そこで私の靈魂は
創造主である方と一つとされました
もう私は他の愛などほしくはありません
私は私の神にすべてゆだねたからです
愛する方は私のためにおられ
私は愛する方のためにおります

(続く)

カルメル誌 新刊案内



2018年 秋号 No.370

《霊的生活への招き》

- 沈黙の祈り(念祷) 松田浩一
 信仰生活(再)入門 テレーズと共に歩む
 幼子の道(3)―小鳥の祈り(1) 片山はるひ
 カルメル会の会則に見る
 アシェーシスと修道生活(3) 九里 彰
 現代に響くルルドの霊性(Ⅱ)
 ―聖ベルナデッタとカルメル会とのつながり 須沢かおり
 人の生き様と結びついた祈り(2)
 ―祈りは、宗教の塊です 森 一弘
 風に吹かれて(17)―新しい自分を求めて 原 造
 キリストに伴われて季節を巡る(3) 伊従信子
 祈りを教えてください(3)
 ―マルコ福音書による「目覚め」としての祈り 田畑邦治
 「だれか熱い紅茶を入れてくれないかしら」 森 みさ
 霊性研究会議義録(2)―秘跡について 奥村一朗



2018年 特集号

「ともに暮らす家を大切に」

―『ラウダート・シ』を生きる―

「エコロジカルな回心」と「総合的なエコロジー」

吉川まみ

長く見落とされてきた

「身近で些細な存在をいとおしむ」スポット・ライト
 大瀬高司

人知れず紡がれていく世界の中で

―『ラウダート・シ』の霊性
 中川博道

諸宗教対話の立場からひと言

フランコ・ソットコロナ

自然とカルメルの霊性

―十字架の聖ヨハネを中心にして
 九里 彰

ご案内

1冊 520円 A5サイズ 50～70ページ

サンパウロ・ドンボスコ書店・イグナチオ教会案内所・上野毛教会
 信徒ホール本コーナー・各カルメル会黙想の家 他にてお求め下さい

●送付ご希望の方は、700円【520円(＋送料180円)】程度の献金を下記
 へお振込み下さい

●年間での継続送付ご希望の方は、年会費(年5冊：春夏秋冬
 ＋特集号 計 3,500円)を下記へお振込み下さい

郵便振替:00190-4-195457 跣足カルメル修道会
 お問い合わせは事務担当 竹田まで TEL.(03)5706-8356



2019年のご案内

年間テーマ かかわりを広げる

特別企画

リレー対談 私と、家族と、社会とのかかわり
 晴佐久昌英（東京教区司祭）×香山リカ（精神科医）
 関根英雄（東京教区司祭）×宮台真司（社会学者）

以降継続

神から受けて、自分、隣人、家族へ、そして教会だけでなく、社会へと広がっていくべき「かかわり」。その愛のかかわりをそれぞれの場で今一度見つめ直し、深めるために数組の識者が対談します。

新連載

●カトリックの信仰を生きた愛国者・ステファノ山本信次郎 大瀬高司（カルメル修道会司祭）

海軍軍人、また昭和天皇の側近として活躍し、日本とパチカンの外交関係樹立に貢献した山本信次郎の足跡を史料を基にたどります。



大瀬高司 師

- 詩編の中の「わたしと神」／青木孝子（聖書学者）
- 典礼と信仰教育——オリエンズ典礼セミナーⅢ（4月より）
- 「先生、あの偉そうな赤ちゃん誰？」——神様をめぐる対話
小林由加（カトリック学校教員）
- 典礼暦とともに、季節の味わい／柳谷晃子（台所料理人）

月刊『福音宣教』お申し込み方法

◇郵便局に備えつけの振替用紙にて年間定期購読料を下記口座までお振り込みください。ご入金確認後、発送いたします。

- 口座番号：00170-2-84745
- 加入者名：オリエンズ宗教研究所
- ご購読料：7500円（税・送料込）
- 備考欄：「福音宣教～月号から」とご希望の開始月をご明記ください。ご指定がなければ、最新号からお送りいたします。

年間定期購読料（年11回、8・9月合併号）7500円（税・送料込）一部定価600円＋税

オリエンズ宗教研究所 〒156-0043 東京都世田谷区松原 2-28-5
TEL:03-3322-7601 FAX:03-3325-5322 <https://www.oriens.or.jp>



書籍案内

生きる意味

●キリスト教への問いかけ

清水正之・鶴岡賀雄・桑原直己・釘宮明美 編

A5判・312頁・2500円+税

ISBN978-4-87232-100-5

東日本大震災と原発事故によって喚起された「生きる意味」という愚直な問い。その答えを示すことこそが、「宗教」である。グローバル化に伴う経済格差、労働のあり方、宗教の役割など——危機にさらされている人間の救済の道を探る。

———目次———

- 序 「生きる意味への問いかけ」がなされる場をめぐって／鶴岡賀雄
- 1 東日本大震災と宗教／中下大樹
 - 2 宗教と社会と自治体の災害時協力／稲場圭信
 - 3 東日本大震災に思うこと／佐藤純一
 - 4 脱原発の倫理／久保文彦
 - 5 何のために働くのか／神谷秀樹
 - 6 グローバル化する経済の中の人間／勝俣 誠
 - 7 私たちの社会に希望はあるか？／宮台真司
 - 8 関係の倫理学／清水正之
 - 9 宗教が医療・医学に果たした役割、果たすことが期待されている役割／加藤 敏
 - 10 V・フランクルのロゴセラピー／桑原直己
 - 11 「神の子となる」——カルメルの霊性と共に／★九里 彰★
 - 12 「おかげさま」の言語化と生き方による霊性化／中野東禅
 - 13 エディット・シュタイン『十字架の学問』への道とその霊性／釘宮明美

オリエンス宗教研究所 TEL:03-3322-7601 FAX:03-3325-5322

ご注文は全国のキリスト教書店、オリエンスHP、FAX、ネット書店などへ



福者マリー=ユジェーヌ神父に導かれて
十字架の聖ヨハネの
ひかりの道をゆく

伊従 信子 編・訳

ISBN978-4-88216-372-5 C0195

定価**540**円(税込)

【聖母文庫】 **287**

**第2版
好評発売中!**



マリー = ユジェーヌ神父が十字架の聖ヨハネ
を生き、体験し、確認した教えなのです。
ですから、十六世紀の十字架の聖ヨハネの
教えは現代の人々にも十分適応されます。
また、神の命を伝え、実践的手段を示して
聖性の最も高い段階へと導こうとする彼の
配慮が伝わってきます。(「はじめに」より)

神と親しく生きる
いのりの道

福者マリー=ユジェーヌ神父とともに

R. ドブレール/J. ギシャル 著

伊従 信子 訳

ISBN978-4-88216-307-7 C0195 【聖母文庫】 **246**

定価**540**円(税込) 209頁



わたしは神をみたい
いのりの道をゆく

マリー=ユジェーヌ神父とともに

伊従 信子 編・著

ISBN978-4-88216-339-8 C0195 【聖母文庫】 **268**

定価**648**円(税込) 281頁



ご注文・お問い合わせ先

聖母の騎士社 ☎850-0012 長崎市本河内2-2-1
TEL.095-824-2080 FAX.095-823-5340

最新刊のご案内

修道院の風

宇治カルメル会 修士 原 造・著

競争社会の真ただ中、ある夜、闇の中に流れ来るふしぎな調べに足を止めた。それは、初めて耳にした、心に沁みる祈りの声――。

この世に、しかも身近に、自分のためではなく、神と人びとのために隠れて生きる人びとがいることも知った。そしてそこから、自分の人生設計にはなかつた、洗礼、修道生活という新たな世界へと導かれてきた。

これは、修道士となり、人生も黄昏のときを迎えた祈りの日々、折りにふれて緩った随想の風。

著者★原 造（はら つくる）

1946年 群馬県桐生市生まれ。

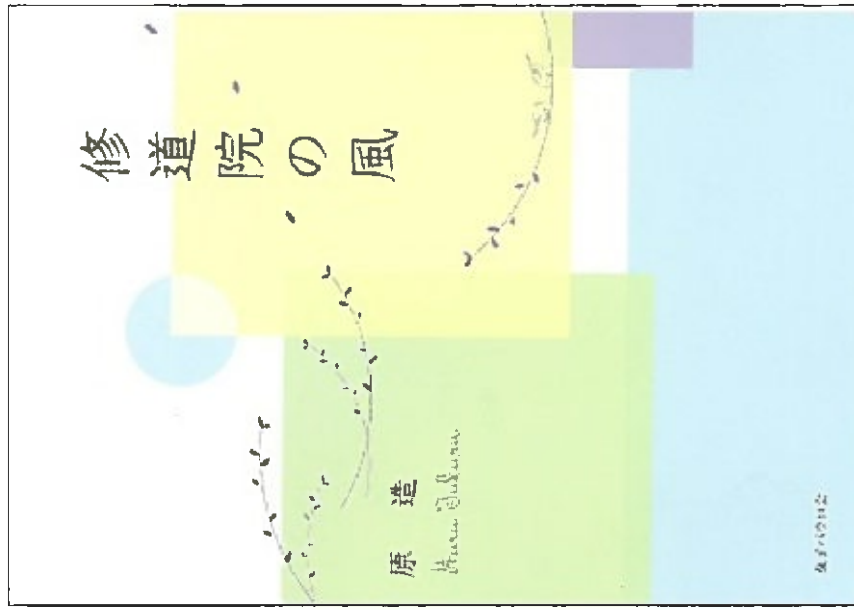
1991年 男子跳足カルメル修道会入会。

1997年 狂歌管願直立。

現在に至る。

5月10日発行

女子パウロ会
新刊案内



B6判・128頁・定価 本体 1,100円＋税
ISBN978-4-7896-0794-0 C0016 NDC194

愛と英知の道

—すべての人のための霊性神学—

ウィリアム・ジョンストン 著

九里 彰 監訳
岡島 禮子 三好 洋子 渡辺 愛子 共訳



西洋と東洋の神秘主義の伝統に通暁した著者が、21世紀というグローバル化し、「地球家族」となった現代世界のすべてのキリスト者に遺した霊的 생활の道しるべ。「すべての人は、聖職位階に属している人も、あるいはそれによって牧されている人も、皆聖性へと召されている。『あなたが聖なる者となること、これが神の望みである』と使徒が言っているとおりでである」(「教会憲章」39)。

本書は、十字架の聖ヨハネが16世紀に向けてなしたことを、21世紀に向けて行なおうとする、ささやかな試みです。言いかえると、その目的は、命の水を渴望する人たちへ、観想的な祈りを教えることです。筆者は、主にキリスト信者を念頭に置いて筆を進めますが、真理の探究において私と心と心を一つにし

- 第一部 キリスト教の伝統
 - 第1章 福音書(1)
 - 第2章 福音書(2)
 - 第3章 理性対神秘主義
 - 第4章 神秘主義者と愛
 - 第5章 東方のキリスト教
 - 第6章 愛を通して生まれる英知
- 第二部 対証
 - 第7章 科学と神秘神学
 - 第8章 倫理規範とアジア
 - 第9章 神秘主義と
観想的なまじりけ
 - 第10章 英知と(愛)
- 第三部 現代の神秘的な旅
 - 第11章 信仰の旅
 - 第12章 浄化の道
 - 第13章 研究
 - 第14章 (愛のうちにある)
 - 第15章 花蓮と花冠
 - 第16章 一 歌
 - 第17章 愛知
 - 第18章 活動
 - 第19章 社会運動の神秘主義



ウィリアム・ジョンストン William Johnston S.J. (1925-2010)
北アイルランドのベルファストに生まれる。
イエズス会に入会し、26歳で来日。
32歳で司祭に叙階され、以後、英語、英文学、宗教学を学習大学などで講じるかわらわ、東西の宗教思想、特に神秘主義の研究と普及に尽力。パドロー・アルベ、トマス・マートン、ダラウ・ラマ、永井隆、蓮池尚作との出会いを通じて、次々と著作を発表。現代に開いた霊性探求の先駆者として、世界に広く知られている。85歳で帰天。

使徒言行録を読む

聖霊に導かれて



14

企画・編集

京都司教区聖書委員会

使徒言行録はルカ福音書の後編として書かれ、初代教会においてどのように福音が宣教されていったかをわたしたちに伝えています。エルサレムでの初代教会、ペトロの宣教、そしてパウロの宣教と受難について述べていくことを通して、使徒言行録の本当の主人公が聖霊であることが明らかにされていきます。カトリック教会で使徒言行録についての解説がほとんどない中、使徒言行録を読んでいくための必修の講話集。



村上 透磨	はじめに
中川 博道	ペトロの宣教
一場 修	聖霊の働き
西 経一	パウロと律法
北村 善朗	パウロの宣教
鈴木 信一	パウロの受難
澤田 豊成	パウロからわたしたちへ

定価 本体 **1,400** 円 + 税

B6 判並製・232頁・ISBN978-4-8056-3909-2

お求めは聖書委員会またはキリスト教書店で

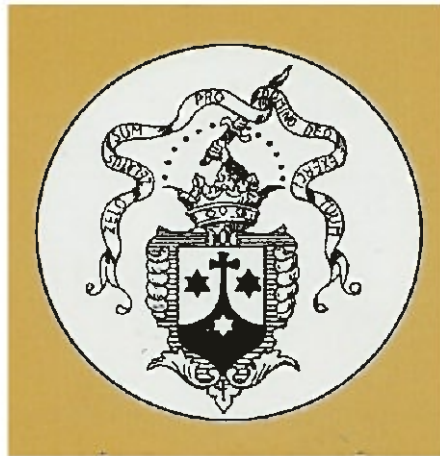
京都司教区聖書委員会

〒604-8006 京都市中京区河原町通三条上ル カトリック会館7階

TEL: 075-211-3484 FAX: 075-211-3910

E-mail: scisho@kyoto.catholic.jp

カルメル会の企画案内



カルメル会の標語

Zelo zelatus sum pro Domino Deo exercituum

私は万軍の神、主に情熱を傾けて仕えてきました（列王記上 19 : 10）



上野毛 霊性センター(東京) (~2019年3月)

黙想企画 **上野毛 聖テレジア修道院 (黙想) **

祭日のミサに参加するために

【クリスマス】 チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時

2018年 12月24日(月)~25日(火)朝食<講話なし、夕食なし>

聖書深読黙想会 大瀬高司 神父

2018年

12月 1日(土)夕食~ 2日(日)午後4時

日帰り黙想会 13時30分~16時 福田正範 神父

私たちの毎日の生活が神のみことばの光によって照らされますように・・・。

2018年 11月8日(木) 11月30日(金) 12月13日(木)

2019年 1月11日(金) 1月25日(金) 2月 7日(木)

2月22日(金) 3月 7日(木) 3月22日(金)

*各日、午前から個人静修も可能です。(昼食付)

*申し込みは、3か月前より受付致します。

奉獻生活者のための黙想会 福田正範 神父

2018年

12月27日(木)17時~ 1月 5日(土)朝

青年黙想会(男女) 35歳位まで

2019年

2月16日(土)16時~17日(日)16時 カルメル会士

召命黙想会(男女) 40歳位まで

2018年

11月23日(金)16時~25日(日)16時 カルメル会士

特別黙想会 S r. 伊従信子 (ノートルダム・ド・ヴィ)

2018年

11月16日(金)20時~18日(日)16時



- * 日程、指導司祭は変更される可能性もあります。お申込みの際には、ホームページ (<http://www.carmel-monastery.jp>) なども合わせてご覧下さい。
- * こちらに掲載されている以外の日時にもご利用可能です (グループ、個人いずれも)。お気軽にお問い合わせください。
- * 間違いを避けるため、お問い合わせは FAX・はがき・Eメール等、文書でお送り頂きますと幸いです。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

聖テレジア修道院(黙想)

Tel:03-5706-7355 Fax:03-3704-1789

Eメール : mokusou@carmel-monastery.jp

ホームページ : <http://www.carmel-monastery.jp>

***** 日帰り黙想会 *****

☆☆☆聖人たちをささえた神のことば☆☆☆

“聖書を知らないことは、キリストを知らないことだ” とヒエロニモは言いました。
第二ヴァチカン公会議においても次のように語られています。

「すべてのキリスト者は、しばしば聖書を読んでキリストを知るすばらしさを学ぶように強く特別に奨励する」(啓示憲章6章25) 信じる人々を支えた神のみことばの光に照らされますように・・・

場所：カルメル会聖テレジア修道院(黙想の家)

指導：福田正範神父



*午前中を個人黙想として静修をご希望の方は午前10時～ご利用が可能です。

昼食の準備のためあらかじめご連絡をお願い致します。

費用：午後からのご参加・・・¥2000、午前からのご参加・・・¥3500

日時：2018年	11月 8日 (木)	午後1時30分～4時
	11月30日 (金)	〃
	12月13日 (木)	〃
2019年	1月11日 (金)	〃
	1月25日 (金)	〃 *変更
	2月22日 (金)	〃
	3月 7日 (木)	〃
	3月22日 (金)	〃

*お問合せ・お申込み：

カルメル会聖テレジア修道院(黙想)

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

TEL. 03-5706-7355

FAX. 03-3704-1789

Eメール：mokusou@carmel-monastery.jp

特別黙想会

《わたしは神をみたい》

2018年11月16日(金) 20時～18日(日) 15時

愛の渇き：

イエスの渇き と わたしの渇き

わたしたちは
たくさんものにかこまれていながら
「飢え、渇いて」います
何が 心の孤独 空洞を
満たしてくれるのでしょうか・・・

この水を飲む者は 誰でもまた渇く。
しかし、わたしが与える水を飲む者は
決して渇かない。
わたしが与える水は その人のうちで
泉となり 永遠の命にいたる水が湧き出る。



主よ、渇くことがないように・・・その水をください ～ヨハネ4・5—15～

- 指 導： 伊 従 信子 (ノートルダム・ド・ヴィ会員)
- 参加費： ￥12000
- 持参品： 「いのりの道を行く：福者マリ―=ユジェヌ神父とともに」

聖母の騎士社、聖母文庫、伊従編著

- 場 所： カルメル会上野毛聖テレジア修道院 (黙想の家)

158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25

Tel 03-5706-7355

- お申込み： F A X： 03-3704-1789

Eメール：mokusou@carmel-monastery.jp

または、ハガキにてお申込み下さい。





カルメル召命黙想会

神の国の秘密



- 日時 : 11月23日(金) 16時 ~ 25日(日) 16時
場所 : カルメル会上野毛 聖テレジア修道院(黙想)
対象 : 召命を考えている、独身の青年男女(40歳まで)
定員 : 20名
費用 : 一般 10,000円 学生 5,000円
締切 : 11月16日(金) <必着>
指導 : 福田正範神父・カルメル会士

※住所・氏名・性別・年齢・電話番号・所属教会名を記入し、ハガキ・FAX・E-mailの何れかで下記まで。折り返し、こちらよりご連絡させていただきます。

158-0093 世田谷区上野毛2-14-25

カルメル会 聖テレジア修道院(黙想)

電話 : 03(5706)7355

FAX : 03(3704)1789

E-mail : mokusou@carmel-monastery.jp

カルメル修道会 一日静修 in 名古屋

—カルメル会士とともに過ごす聖母の土曜日—

日 時 : 2018年 11月24日 (土) 13時から 17時

テ ー マ : ヤヌア・チェリ (天の門)

場 所 : カルメル修道会 日比野 (本部) 修道院 (カトリック日比野教会)

プログラム : 13時 ~ 講話・黙想など
16時 ~ ミサ (ミサ中に教会の祈り)、サルヴェ・レジナ (ミサ後)
17時 解散

- ・受付開始は12時半の予定です。(聖堂には12時からお入りいただけます。)
- ・途中、ゆるしの秘跡の時間を設ける予定です。
- ・プログラムに必要な「祈りのリーフレット類」は、こちらで準備いたします。

そ の 他 : 参加のための事前連絡は不要です。当日、直接会場にお越し下さい。
(尚、当日は、1,000円程度のご寄付を宜しくお願いいたします。)

問 い 合 せ : 郵便、FAX、E-mail の何れかで「カルメル修道会 一日静修係」まで。

郵便 456-0062 名古屋市 熱田区 大宝 4-5-17
FAX 052-681-6445
E-mail hibino@carmel.or.jp

今後のスケジュール

12月8日 (土)

何れも原則13時から17時まで。ホームページでもご案内しています。

<http://www.carmel-monastery.jp>

< 主催 > 男子跣足カルメル修道会 日比野 (本部) 修道院 (大瀬神父・ウイラー神父・古川神父)

宇治カルメル会 2018年度 黙想会案内

【一般のための黙想】・1泊2日（午後5時～午後4時）

11月23日（金）～25日（日）※2泊3日「目覚めていなさい」 中川博道神父

【聖書深読黙想会】（午前10時～午後4時）

変更 ~~12月1日（土）~~ → 12月8日（土） 中川博道神父

【水曜の黙想】（午前10時～午後4時）

11月21日（水） 「永遠の命」 九里彰神父

12月19日（水） 私たちの内に宿りたいインマヌエル Sr.ロサ

【カルメル青年の集い】（午前10時～午後4時）

11月23日（金） 中川博道神父

【一般のためのカルメル霊性】（午後5時～午後4時）

12月8日（土）～9日（日） 十字架の聖ヨハネにおける愛の変容 九里彰神父

【生活の中での霊的同伴】（金曜午後8時〈夕食なし〉～土曜午後4時）

11月2日～3日 九里彰神父

【待降節の黙想】（午後5時～午後4時）

12月1日（土）～2日（日） 「人となられた神」 九里彰神父

【奉獻生活者の黙想】（午後5時～午前9時）

11月6日（火）～15日（木） 九里彰神父

12月27日（木）～1月5日（土） 中川博道神父

祭日のミサに参加するために

チェックイン午後4時以降可、チェックアウト午前11:30（講話なし、各食事つき）

【クリスマス】

12月24日（日）～12月25日（月）

－その他皆さまが企画なさった

グループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします－

☆お申し込みは、電話でも受け付けておりますが、できるだけFAX、はがき、Eメールでお名前と連絡先を御記入の上、お申込み下さい。お電話は、なるべく午前9時～午後5時の間にお願ひ致します。受付が休みの場合は、その場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様にお願いいたします。



〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
宇治カルメル会 聖テレジア修道院 (黙想)
Tel 0774-32-7016 Fax 0774-32-7457
E-Mail:teresiauji@mountain.ocn.ne.jp
<http://www.carmeluji.sakura.ne.jp/>

宇治聖テレジア修道院（黙想）の 「建築基金」への献金のお願い

主の平和がいつも皆様の上にありますように

宇治の黙想の家は、1962年に建てられ、すでに54年の歳月が経っております。老朽化が進み、いろいろな点で支障をきたしております。そのため、新しく建て直す必要性が出てまいりました。会内で検討を続けてまいりましたが、財源に余裕がなく、新築計画が頓挫しております。

黙想の家は、キリスト者の霊的生活を培うために無くてはならないものです。またカルメル修道会は、霊的指導を会の固有使徒職としております。この意味でも、また日本の教会のためにも、静かに黙想する場所を、信徒の皆様のために確保してゆきたいと願っております。

建築資金の確保のため、少額でも結構ですので、皆様の御協力をいただければ幸いです。お志のある方は、以下の会本部の銀行口座か郵便貯金口座にお振込みください。その際は、誠にお手数ですが、お名前とご住所、振込み日と金額を、郵便かファックスで本部までお知らせくださるようお願い申し上げます。よろしくお願いたします。

三井住友銀行
上前津（カミマエツ）支店
普通口座：7205805
名義：男子洗足カルメル修道会

郵貯銀行
記号：10040
口座番号：56845391
名義：男子洗足カルメル修道会



男子洗足カルメル修道会本部
〒456-0062 愛知県名古屋市熱田区大宝 4-5-17
Tel: 052-671-1558 Fax: 052-681-6445

金沢黙想案内

毎月第一日曜日 三馬教会 聖堂

14：30～ 講話

15：30～ ミサ（ラテン語聖歌）

土曜フレックスタイム静修

毎月第三土曜日（第二の場合あり）三馬教会 聖堂

14：00～ 講話

14：30～ ベネディクション・聖体祭儀

15：30～ サルヴェ レジナ 終了

沈黙の祈りのうちに神様と語らい、またご聖体のイエス様と
共に静かに憩いの時を過ごし、心をリフレッシュしましょう



カルメル霊性センター

〒921-8162

金沢市三馬3丁目324番地

カルメル会 三馬修道院

三上 和久神父まで

Tel 076-244-7788

聖書深読センターのご案内

- 1 東 京・・・上野毛聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。
- 2 宇 治・・・宇治聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。

通信深読について

通信深読は、現在何箇所かで行われているようです。そのうち1箇所が新たに参加可能なので、紹介します。

1 朝日カルチャーセンターの通信講座

参加者は、「個人素読」（記号、全、所感、近況報告などを書くB5用紙）を提出。講師のコメントが記入されて返送される。参加者全員の「個人素読」と「素読表」そして解説が冊子になって送られる。

費用：6ヶ月20,360円（4、7、10、1月に納入） 継続の場合は19,130円

講師：九里彰師（奇数月） 今泉健師（偶数月）

問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿2-6-1 新宿住友ビル

私書箱21号 朝日カルチャーセンター通信講座課

電話03-3344-2527（直通）

- ◎ 聖書深読に関してご質問のある方は、下記聖書深読センター事務局 Srローザ
にお問い合わせ下さい。



聖書深読センター

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山39-12 カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

所長：九里彰神父 事務局長：今泉健神父 連絡先：Srローザ

TEL 0774-32-7016 FAX 0774-38-2543

Eメール carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp

諸所の企画案内



心のいほり 内観黙想センター
真命山 霊性交流センター
ノートルダム・ド・ヴィ
サダナ瞑想
ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院
リーゼンフーバー神父キリスト教講座
慈しみ深き会
詩編の会
マリアポリ (フォコラーレ)

※注)

諸所の企画記事は集約・編集しています。
記載には注意を期しておりますが、
詳細は各問い合わせにご照会下さい。
よろしくお願い致します。



カルメル霊性センターニュース

諸所の黙想企画ご案内

※各黙想内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

心のいほり 内観黙想センター

先の予定表と若干変わっていますので、開始の曜日や時間などにご注意ください。

2018年以降の予定

今後の内観は、希望者の日程や会場・修道院の都合を調整して行います。

◎Eメール・ファックス・手紙でセンターに問い合わせてください。

電話では取り次いでおりません。

申し込みは、会場予約準備がありますので、10日前迄に完了をお願いします。

(新住所)

◎〒662-0003 兵庫県西宮市鷺林寺町3-46 シトー会

西宮の聖母修道院 司祭館

「心のいほり・内観瞑想センター」 藤原神父

FAX 0798-71-5234 Eメール fujinao1944@nifty.com

<http://www.com-unity.co.jp/naikan> (ホームページ・アドレス)

◎予約の決まった後に、会場までの詳しい地図などの書類をお送りします。



真命山 2018年 — 祈りの集いのご案内

毎月第2木曜日 (10:00～15:00)

指導者 フランコ神父

*は聖ザベリオ宣教会ダニエロ・マルケット神父

個人またはグループでの黙想会

研修会も歓迎いたします(要予約)

- 1月11日 五旬節続唱「聖霊、来たり給へ」
2月 8日 聖ボナベンツラの祈り
3月 8日 聖アンセルモの祈り
4月12日 聖フランシスコ・ザビエルの祈り *
5月10日 「サルベ・レジナ」
6月14日 聖心の連願
7月12日 ロヨラの聖イグナチオの祈り *
8月 休み
9月13日 幼いイエズスの聖テレジアの祈り *
10月11日 アッシジの聖フランシスコ作とされている「祈り」
11月 8日 シャールズ・デ・フーコーの祈り *
12月13日 「テ・デウム」

申込先

真命山 諸宗教対話センター

865-0133 熊本県玉名郡和水町蜻浦1391-7

e-mail: shinmeizan@gmail.com

www.shinmeizan.com



いのちの泉へ

11月24日（土） 午後2時 ～ 午後5時半位まで

いのちの泉の

ほとりにて

～三位一体の聖エリザベット～

講話・祈り・質問・分かち合い

担当 伊従信子 中山真里

場所 ノートルダム・ド・ヴィ

（東京・上石神井）

参加費 200円



11月24日（土） 午後2時 ～ 5時半

テーマ：未定

担当： 片山はるひ

場所： 上智大学 カトリックセンター

参加費： 200円



問い合わせ：ノートルダム・ド・ヴィ

〒177-0044 練馬区上石神井4-32-35

TEL(03)3594-2247 FAX(03)3594-2254

e-mail notredamedevie.japan@gmail.com

サダナ瞑想 ～東洋の瞑想とキリスト者の祈り～

詳細、補充情報はホームページをご覧ください。

<http://sadhana.jesuits.or.jp/>

★申込み受付・開始日の8日前まで

コース	日時	指導	開催場所	申込み
入門C	11/18(日) 9:30-17:00	Fr植栗	ニコラバレ修道院 1F (四ツ谷)	来間(くるま) 裕美子※ Tel 090-5325-2518 045-577-0740 sadhana7123@yahoo. co.jp
サダナ II	11/21(水)17:30- 25(日)16:00	Fr植栗	汚れなきマリア修道 会・町田黙想の家 (町田市)	同上
フォローア ップ	2019年 1/6(日) 9:30-17:00	Fr植栗	ニコラバレ修道院 1F (四ツ谷)	同上
サダナ I	2/8(金)17:30- 11(月)16:00	Fr植栗	小金井聖霊修道院 (小金井市)	同上
フォローア ップ	3/10(日) 9:30-17:00	Fr植栗	ニコラバレ修道院 1F (四ツ谷)	同上
サダナ II	3/20(水)17:30- 24(日)16:00	Fr植栗	小金井聖霊修道院 (小金井市)	同上

※不在の場合は、渡辺由子

Tel&Fax : 042-325-7554

◆サダナ I (入門A.B.C)

体の営みと想像とを生かして祈りを深め「神との出会い」と「心の解放」をめざす。

◆サダナ II

Iをいっそう深める。身体・感・想像・自分史が、神との交わりのもと統合される。

◆フォローアップ・・・サダナIを終えた方。

◆入門C・・・入門Aまたは入門Bを終えた方。



ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院

◎ 所在地： 〒520-0106 滋賀県 大津市 唐崎 1丁目 3-1

Tel： 077-579-7580

Fax： 077-579-3804

Eメール：karainorind92@mbe.nifty.com

ホームページ：<http://www.ssnd.jp/>

◎ 交通： JR 京都駅から湖西線で三つ目「唐崎」下車。
琵琶湖の方へ徒歩 約 13 分

◎ 日程：

A. 8 日間の個人指導による黙想

初日は、18 時の夕食で始まり、最終日は昼食で終わります。

- ① 2018 年 5 月 6 日 (日) ～ 5 月 14 日 (月)
- ② 8 月 14 日 (火) ～ 8 月 22 日 (水)
- ③ 10 月 7 日 (日) ～ 10 月 15 日 (月)
- ④ 12 月 27 日 (木) ～ 2019 年 1 月 4 日 (金)

B. 祈りの体験：週末 3 日間 (全曜日の夕食～日曜日の昼食)

【神との親しさの中で日常を生きるために】

- ① 2018 年 2 月 2 日 (金) ～ 2 月 4 日 (日)
- ② 2 月 23 日 (金) ～ 2 月 25 日 (日)
- ③ 3 月 16 日 (金) ～ 3 月 18 日 (日)
- ④ 6 月 22 日 (金) ～ 6 月 24 日 (日)
- ⑤ 7 月 13 日 (金) ～ 7 月 15 日 (日)
- ⑥ 9 月 21 日 (金) ～ 9 月 23 日 (日)
- ⑦ 11 月 16 日 (金) ～ 11 月 18 日 (日)

C. 講話 黙想 (奉獻生活者のため)

2018 年 5 月 30 日 (水) ～ 6 月 7 日 (木) 雨宮 慧 師 (東京教区)

◎ 対象：信徒、修道者、司祭、洗礼を受けていない方、どなたでも参加できます。

◎ 霊的同伴者： 司祭、ノートルダム教育修道女会会員、その他

◎ 申込み： 1) 氏名(カナ) 2) 〒住所 3) 電話番号 4) 希望日程(番号) を書いて郵送、または、Fax で「黙想係」Sr.松本佳子へ申し込んでください。唐崎修道院への案内地図の必要な方は、その旨を書き添えて下さい。

いずれの場合も、10 日前までに申し込んでください。先着順 11 名です。

◎ その他： 司祭同伴の黙想会やグループ研修会のために修道院をご利用なさりたい方はご相談ください。(但し、上記の日程と 8 月 1 日～8 月 9 日、9 月 1 日～9 月 7 日を除きます。)

2018年度 女子青年黙想会

	日時	テーマ	講師
1	5月26日(土)～27日(日)	マルコによる受難	山内十束師(ご受難会)
2	7月7日(土)～8日(日)	マタイによる受難	山内十束師(ご受難会)
3	2019年 2月16日(土)～17日(日)	ルカによる受難	山内十束師(ご受難会)

場所： ノートルダム教育修道女会 唐崎修道院

〒520-0106 滋賀県大津市唐崎 1-3-1

対象： 独身女性青年信徒

費用： 2,500円 (一日参加も可)

申込み・問合せ： ノートルダム教育修道女会 唐崎修道院 シスター桂川

Tel : 077-579-2884 Fax : 077-579-3804

email: karainorind92@nifty.com

ルカによる受難

2019年度 第3回 女子青年黙想会

日時： 2月16日(土) 15:00～

17日(日) 15:30まで

場所： ノートルダム唐崎修道院 (JR京都駅から30分)

指導： 山内 十束 師 (ご受難会)

対象： 独身青年女性信徒

費用： 2,500円

〈申込み・問合せ〉

〒520-0106 滋賀県大津市唐崎 1-3-1

ノートルダム教育修道女会 Sr. 桂川

Tel : 077-579-2884 Fax : 077-579-3804

email: karainorind92@nifty.com

【入門講座】

毎週金曜日 18時45分～20時30分

聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール
どなたでも。聖書に基づきキリスト教の基本
テーマを取り扱います。無料

- 11/2 父と子と聖霊—神の生命に与る
- 11/9 信仰の決断—支えられて生きる
- 11/16 ミサ祭儀—神への奉仕と生活の糧
- 11/30 自己実現と神の意志—生き方の規範
- 12/7 人間の弱さ—罪とは何か
- 12/14 恵みとゆるし—神の憐れみを受ける
- 12/21 愛の心—キリスト教の本質

【理解講座】

第1・3火曜日 18時45分～20時30分

聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール
キリスト教の基礎知識を持っている方。
信仰理解と信仰生活の深まりを目的とし、
キリスト教の中心的テーマを探求します。無料
2年間のコース。途中参加・部分参加も可

【イエス】

- 11/6 死からの命—復活の認識・経験・理解
- 11/20 キリストはだれか—キリスト理解の発展
- 12/4 御子の受肉—神の子と人の子

【聖霊】

- 12/18 神の内的現存
—人間における聖霊の働き
- 1/15 三位一体の神
—救いの構造から神内の存在へ

【土曜アカデミー】

下記(予定)の土曜日:

9時30分～12時、岐部ホール4階404、
各時代の文章を読んで、思想史一般とキリス
ト教哲学・神学の相互関係を考察します。無料
キリスト教思想史に関心を持っている方。
プログラムの詳細は、別途配布。

参考書:K.リーゼンフーバー著『西洋古代・中世
哲学史』『中世思想史』平凡社ライブラリー
2018年度のテーマ:

近代と現代におけるキリスト教と理性

- 11/17 シェーラー:人間的人格性と行為(20世紀)
- 11/24 ブーバー:我・汝の人間関係(20世紀)

【神学読書会】

第2・第4木曜日:18時～20時

上智大学内S.J.ハウス、第5応接室。
『リーゼンフーバー小著作集』から霊性と
神学に関する文章を読んで、話し合います。
テキスト:第Ⅲ巻「信仰と幸い—キリスト教の本質」
随時、どなたでもご自由にご参加ください。
※祝日、8月全体、12/27は休み。

【会社帰りの黙想】

毎月第2・第4火曜日 18時45分～20時

聖イグナチオ教会マリア中聖堂
信仰・宗派を問わず、どなたでも。
随時の参加・遅刻も可。お気軽に。無料
※祝日、8月全体は休み。

【祈りの集い】

下記の土曜日 13時30分～16時

上智大学内S.J.ハウス、第5応接室
講話、黙想、ミサがあります

11/10、12/1、12/1

2019年 1/12、2/9、3/16

【ロザリオの祈り】

上記同日のミサに続いて 16時10分～16時50分
クルトゥルハイム1階右テレジア小聖堂

【夕方のミサ】

下記の月曜日 18時～19時

上智大学内S.J.ハウス隣クルトゥルハイム1階右
テレジア小聖堂

11/26、12/10

2019年 1/28、2/25、3/25

【坐禅会】

第1、第3月曜日：18時～20時

上智大学内クルトゥルハイム1階左の部屋
2回坐り、間に講話。遅刻・不定期の参加も可。

※祝日、8月全体は休み

【黙想会】

上石神井 1泊7000円

2019年 3/9(土)10時～3/10(日)14時

申込みの締切りは、初日の10日前

【クリスマス会】

12/8(土)10時～13時

聖イグナチオ教会岐部ホール4階404

【クリスマスのミサ】

12/23(祝)14時～

上智大学内クルトゥルハイム2階聖堂

【クリスマスの黙想】

12/25(火)18時50分～20時10分

聖イグナチオ教会マリア中聖堂

—上記の日程に変更がある場合は、
信徒会館1F掲示板でお知らせします。—

《場所・お問い合わせ》

聖イグナチオ教会(四ツ谷駅前)

信徒会館3階

アルペホール TEL 03-3263-4584

クラウス・リーゼンフーバー神父

(上智大学名誉教授)

〒102-8571 千代田区紀尾井町7-1

上智大学S.J.ハウス

電話 03-3238-5124(直通)

-5111(伝言)

Fax 03-3238-5056

※リーゼンフーバー神父様HPアドレス
http://www.jesuits.or.jp/~j_riesenhube/



祈り：講話と実践

沈黙の内に神を求めて
—観想の祈りへの道—

場所：イグナチオ教会岐部ホール404号室
12月のみマリア聖堂（ミサあり）

14:00～16:00

【2018年予定】

~~1月18日 第13の歌 終了~~
~~3月22日 第14及び15の歌（1～14） 終了~~
~~5月24日 第14及び15の歌（15～30） 終了~~
~~7月26日 第16の歌 終了~~
~~9月27日 第17の歌と第18の歌 終了~~
11月22日 第19の歌と第20及び第21の歌
12月20日 第22の歌と23の歌 その後、ミサ

【2019年予定】

1月24日 第24の歌と第25の歌
3月21日 第26の歌と第27の歌

*参加費無料（献金歓迎）

*問い合わせ先：042-473-6287 篠原

九里彰神父（カルメル会司祭）



※各黙想会内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

ミサと晩の祈りをうたう集いへのおさそい

《 聖マリアの奉献の記念日 》

日時：2018年 11月21日 水曜日

13時半 晩の祈りの練習

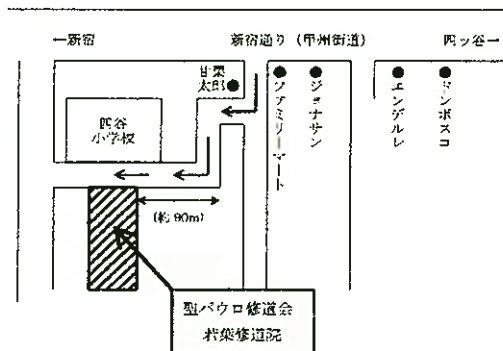
14時 歌唱ミサ

ひきつづき 晩の祈り（歌）（終了予定 16時頃）

司式：中川博道神父（カルメル修道会）

場所：聖パウロ修道会 若葉修道院

東京都新宿区若葉1-5
JR中央線/営団地下鉄 丸ノ内線・南北線 「四ツ谷」駅下車



<道順>

四ツ谷駅より

サンパウロ ドンボスコ
ファミリーマートを左折
甘栗太郎を右折
道なり後左折→道なり後右折
約90m直進
四谷小学校の正面

主催：「詩編の会」

「マリアはこれらの出来事をすべて心に納めて、思い巡らしていた。」

(ルカ2・19)

問合せ・連絡先：TEL/FAX 045-402-5131（藤井）

e-mail: shihennokai@gmail.com

申込書

代表者氏名 _____
 代表者住所 _____
 連絡先 住 _____
 E-Mail _____
 ご紹介者 _____

名前	性別	年齢	宿泊	食事
	男		9日	夕
	・女		10日	朝昼夕
			11日	朝昼
	男		9日	夕
	・女		10日	朝昼夕
			11日	朝昼
	男		9日	夕
	・女		10日	朝昼夕
			11日	朝昼
	男		9日	夕
	・女		10日	朝昼夕
			11日	朝昼

★性別・宿泊・食事欄は必要な欄に○印をつけてください。

振込金額

参加費	人分	円
献 金	他の方への支援献金・会費等のため	円
振込額		円

申込書は取り扱わずにFAXかメールでお申し込みください。

参加費

◆宿泊される方

- 1泊2日 (夕食1・宿泊1・朝食1)
 大人 7,000円
 中・高校生 6,000円
 小学生 5,000円
 未就学児 1,500円
- 2泊3日 (夕食2・宿泊2・朝食2)
 大人 14,000円
 中・高校生 12,000円
 小学生 10,000円
 未就学児 3,000円

◆宿泊されない方

- 大人のみ 1,000円
- ※昼食・夕食をご希望の方は予め申込みが必要です。
- 夕食
 大人 1,080円
 小学生 864円
 幼児 540円

参加費に昼食代は含まれていません。昼食は園内に施設内のレストランを利用していただきます。(無断で持ち帰りできません) 定食や丼ものなど、多彩なメニュー (550円~800円程度) からお好きなものを選んでお召し上がりください。

★レストラン利用者を把握しておくため、申込書の食事欄には記入をお願いします。

申込締切

2018年9月30日 (日)

振込口座

三菱東京UFJ銀行 西荻窪駅前支店
 (普通) 095.1732 フォコラーレ会 代表者 黒川真理子
 ※参加費についてのお問い合わせは、フォコラーレまで……
 <キャンセル料>
 宿泊100%、当日100%、前日80%、9日前20%、20日前10%
 食事：当日80%、前日20%



ようこそ マリアの町へ

2018
 マリアポリ in 埼玉

～ともに歩もう～
 ひとりではなく、つながりのなかで



2018年11月9日 (金) ～11日 (日)

主催：フォコラーレ

お申し込み・お問い合わせ先

フォコラーレ

〒166-0001

東京都杉並区阿佐谷北2-31-12

Tel: 03-3330-5619 Fax: 03-5356-6101

E-mail: tokyofocilem@gmail.com

プログラム

11月9日(金)

- 15:00~ 受付【大会議室】
- 16:00~17:00 出迎いのひととき
- 18:00~19:00 夕食【宿泊棟レストラン】
- 19:30~20:30 ようこそマリアポリへ【大会議室】

11月10日(土)

- 6:00~ 散居(白山参加)
- 7:00~ 8:30 朝食【宿泊棟レストラン】
- 9:30~10:40 プログラム①【大会議室】

※子どもたちの別プログラムがあります。

朝のつどい

- 11:00~12:00 祈りの時間(ミサ)
- 12:00~13:30 昼食【宿泊棟レストラン】
- 14:00~17:00 プログラム②【大会議室】
- 18:00~19:00 夕食【宿泊棟レストラン】
- 19:30~20:30 プログラム③【大会議室】

夜のつどい

51 11月11日(日)

- 7:00~ 8:30 朝食【宿泊棟レストラン】
 - 9:00~10:30 プログラム④【大会議室】
- 朝のつどい
- 11:00~12:00 祈りの時間(ミサ)【大会議室】
 - 12:00~13:30 昼食【宿泊棟レストラン】
 - 14:00~16:00 プログラム⑤【大会議室】

※ 大会議室は研修棟にございます。お荷物も宿泊棟の玄関のコインロッカーをご利用いただけます。

※ プログラムは事情により変更することがあります。

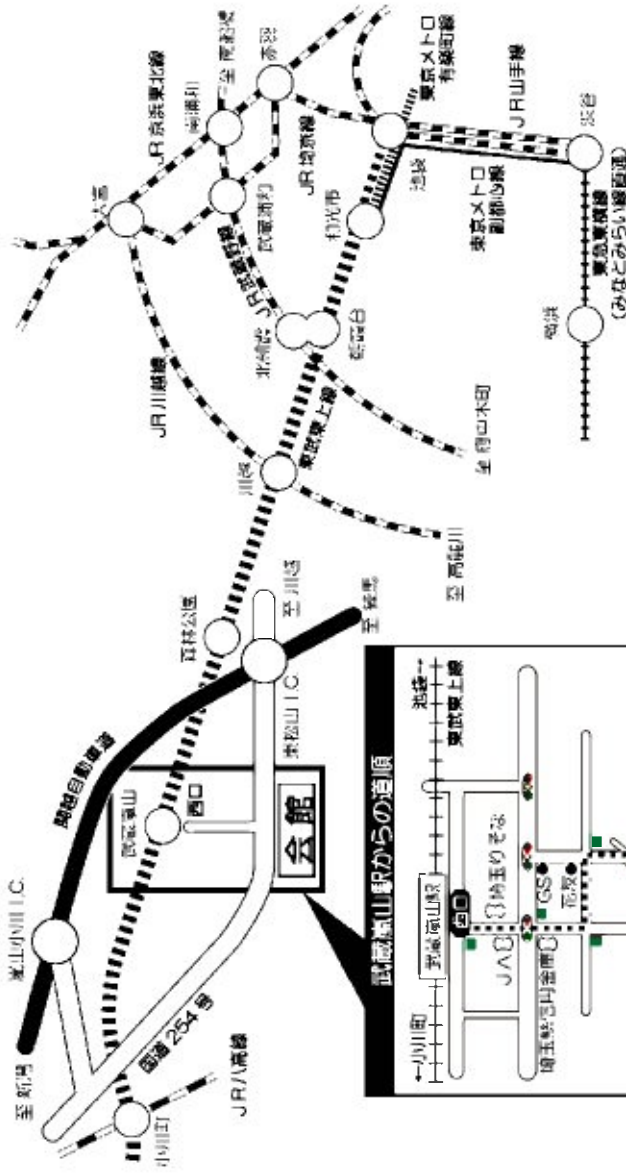


ばしょ：国立女性教育会館

埼玉県比企郡嵐山町菅谷 728

Tel 0493-62-6711

<https://www.nwec-bs.jp/>



交通案内

- 池袋駅から東武東上線 武蔵嵐山駅まで 急行で約65分 駅からは徒歩で約15分です。
- 川越駅から東武東上線 武蔵嵐山駅まで 急行で約31分です。
- ★羽田空港から川越駅まではリムジンバスで約100分です。
- 横浜駅からは東急東横線～東武東上線直通のフラワーライナーに乗り途中森林公園駅でのりかえて武蔵嵐山駅まで約2時間です。
- お車で関越自動車道を東松山IC降りて国道254号線を通って約15分です。

※ 到着しましたら、プログラム場所へ直接お越しください。

☆☆施設内配置区☆☆



四季の移ろいを楽しめる緑豊かな場所です。

『靈性センターニュース』

* 郵送お申込みのご案内 *

ご郵送は、基本的に1月から12月までとなります。

途中からお申し込みの場合は、お申し込みの翌月から12月までとなります。

例：6月申込の場合は、7月号～12月号（但し8月号は休刊）となり、5冊となります。ご希望の月数×250円程度の献金を下記口座（新設）へお振り込み頂ければ、幸いです。

郵便番号口座： 00910-6-333184

加入者名： カルメル靈性センターニュース事務局

なお、振替用紙の通信欄には、「郵送申込」（何月から何月まで）、また氏名、郵便番号・住所、電話、Fax等ご明記ください。

何かご質問等があれば、事務局の方にご連絡ください。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

カルメル会宇治修道院 「靈性センターニュース事務局」

Tel:0774-32-7456

Fax:0774-32-7457

《変わりました》 reisei@carmel-monastery.jp

「靈性センターへの献金」のお願い（上とは別）

「靈性センターニュース」は、7月より、宇治靈性センター事務局で編集、印刷、製本、発送等を行っておりますが、経費はすべてカルメル会で負担しております。読者の皆様のご理解とご協力をいただければ、幸いです。

献金される方は、下記の口座へお振り込みください。

郵便番号口座： 00910-6-333184

加入者名： カルメル靈性センターニュース事務局

なお通信欄へは「献金」とご記入ください。

編集後記

日本ではカトリック信徒はほんのわずか。だからか、信仰をもたない一般の人々の中に、頭がさがるような立派な人々が結構いる。先日もインドで「グリーン・ファーザー」と呼ばれている杉山龍丸さん(1919～1988)の存在を、恥ずかしながら、初めて知った。日本政府からの援助は一切なし。私財をすべて投じ、デリーからアムリツァルまでの約470キロメートルの道路の両側にユーカリの木を2本ずつ、4メートル間隔で植樹、パンジャブ州の砂漠を、稲、馬鈴薯、麦の三毛作ができる緑の土地に変えて行ったのだ(1962～1972)。また各国の学者たちが諦めた高さ300～700メートル、3000キロにわたる砂漠化したシュワリック・レンジ(丘陵)の土砂崩落をくいとめた。当初、砂漠を緑に変える彼の計画を多くの人々は嘲笑ったそうである。しかし、ユーカリが根を張り、緑の風が渡るの見たインドの人々は驚き、感動し、彼に感謝したのである。日本では受け入れられなかった(日本政府は冷たい。インド渡航許可証を3年間も出さず、亡くなる4年前、オーストラリアでの第2回国際砂漠会議への参加費用——唯一の日本からの参加者——も拒否した。彼が、インドの人々から「インドの独立の父はガンジー、インドの緑の父はスギヤマさん」と呼ばれていたにもかかわらず)。

以上のことは、いかに世間的評価がいい加減なものであるかをよく示している。スポーツで活躍すると、「国民栄誉賞」とやらが贈られるが、真に贈るべき人を、政府は見誤っているのではないだろうか。(P. 九里)



男子跣足カルメル修道会のホームページ

<http://www.carmel-monastery.jp>

Google:「カルメル会」で検索できます



男子跣足カルメル修道会
Order of Discalced Carmelites

霊性センターニュース掲載の情報も載っています



『霊性センターニュース』お持ち帰りの方へ
一冊 100 円程度の献金をお願い致します



~~~~製本／発送のご協力お願い~~~~

「霊性センターニュース」の製本/発送を、2017年7月号より宇治修道院で行う事になりました。発送作業は梱包・宛名ラベル貼りと確認チェック等です。皆様のご協力をお待ちしております。初めての方、不定期参加も大歓迎です。

次回の製本/発送日 **11月28日(水) 午前10時頃から**

**宇治修道院信徒会館**

※ご協力いただける方は、製本/発送日をご確認の上、お越してください。

霊性センター事務局 ☎0774-32-7456